

デッサン

そびょう
素描

3年 組 名前 ()

○ デッサン (Dessin) とは、フランス語で、英語でいうデザイン (Design) と同じ意味を指すともいわれています。どちらもラテン語から埋めれた言葉で「計画的に物事を運ぶ」「計画を記号に表す」というような意味になります。皆さんは、デッサンというと

「本物そっくりに描く」と思っていると思います。

これは、ある意味間違いではありません。しかし、本当に本物そっくりであるのならば、わざわざ苦労して描かなくても、「写真があるじゃないか。」という人もいます。そうですね。

と、言いたいところですが、実は、写真とデッサンとは大きく異なっています。

大切なのは、**本物そっくりに描くことの意味**です。本物そっくりに描こうとすれば、描こうとする対象を見つめなければなりません。

じっくりと、時間をかけて細かく。

見つめれば見つめてだけ、発見があります

そうすることで描こうとしているものの理解が深まっていくのです。デッサンが造形活動の基本といわれるのはそのためです。



絵を描くにしても **立体のものを造るにしても**

大切なのは **モノを見つめること**。

ただ見るのではなく、**見つめて深く知ろうとする態度**を持ち、

そこから得たものを表現していくことで、作品ができってきます。

イラストでもマンガでもアニメでも同じです。自分の思いや感情や願いを作品にしていくとき。デッサンで培われたものを見つめる力は、物事の本質をつかめることにつながります。

そして、何が描きたいのか？

何を表現したいのか？

そのためにはどのような構図で、どのような陰影で、どのような表現で・・・と考えていくことにも大きな助けになりますし、発想もしやすくなります。今回の学習をきっかけに学んでいきましょう。

余談 (人の目とカメラの目)

構造的にいうと、人間は、2つの目で見ているので2点透視図法で見えています。対してカメラは、3点透視図法で画像を写します。ですから、写真は、人間が実際に見ているものとは違っているのです。

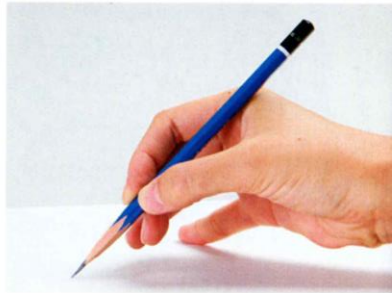
○デッサンの基本

デッサンにはいろんな道具が使えますが、今回は鉛筆を使います。

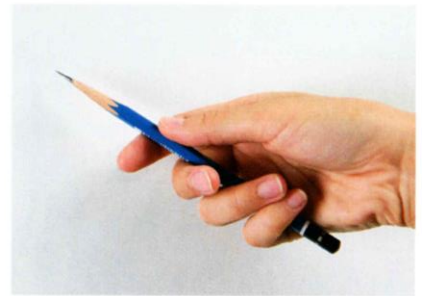
1、鉛筆の持ち方



細部を描くときは、文字を書くときと同じ持ち方で。



描き進んで、画面を汚したくない時には、小指で支えて浮かせて描きます。



大きく描くときは鉛筆をねかせて

鉛筆は、シャープペンシルに比べて、非常に表現の幅が広い筆記具です。描く部分、表現したい意図に応じて使い分けましょう。

また、濃さ（硬さの幅）もあり、
どの濃さを 選ぶか によって
表現の幅や 描く雰囲気も
変わってきます。

（右の図を参考にしてみてください。）

2、消しゴム

消しゴムも実は 描く道具です。

鉛筆が、白い紙に影を描いていくものだとすると、消しゴムは、光（明るさ）を描いていく

ものになります。



失敗したから消す。思い通りにならないところを消す。のではなく、暗くなったところを明るくする。とも考えられます。

文字を書くときの使い方とは大きく異なりますが、そう考えて使うと、使い方だけでなく表現の幅も広がります。

例えば、左のグラスは、ガラス製ですが、ガラスの角に反射するきらりと光る光や透明な質感は、消しゴムがなくては描けません。

鉛筆は影を、消しゴムは光を描く 道具！

覚えておきましょうね。

point

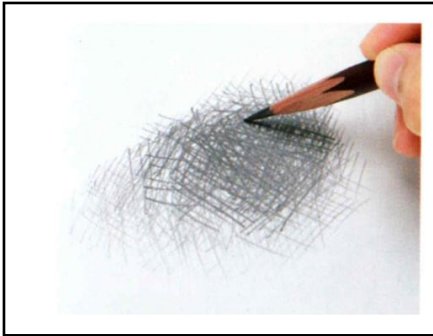
鉛筆の濃さ・硬さ

鉛筆の硬さは10H～10Bまでの22硬度。10Hが一番薄く、だんだん濃くなっていきます。「こんなに種類があるの？」と驚くかもしれませんが、デッサンの世界は「白と黒の世界」しかないので、豊かな色調を表すために必要なのです。また、それぞれの硬さには、その硬さでしか表せない色があります。最初はどの濃さをそろえたらいいか迷うものですが、まずは3H～4Bがおすすめ。必要に応じて、種類を増やしていくといいでしょう。



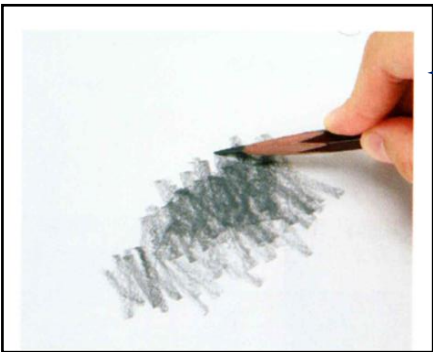
3、タッチのいろいろ

さて、それでは鉛筆と消しゴムを使って、実際に描くときの表現を見てみましょう。画用紙に鉛筆や消しゴムがどのように使われたのかを“タッチ”と言います。下の図はその例です。



ハッチング

いくつかの平行な線を組み合わせて描くことを言います。描こうとする面の明るさや方向、奥行きなどを表現する方法です。マンガでは多用されていますね。



鉛筆をねかせて描く

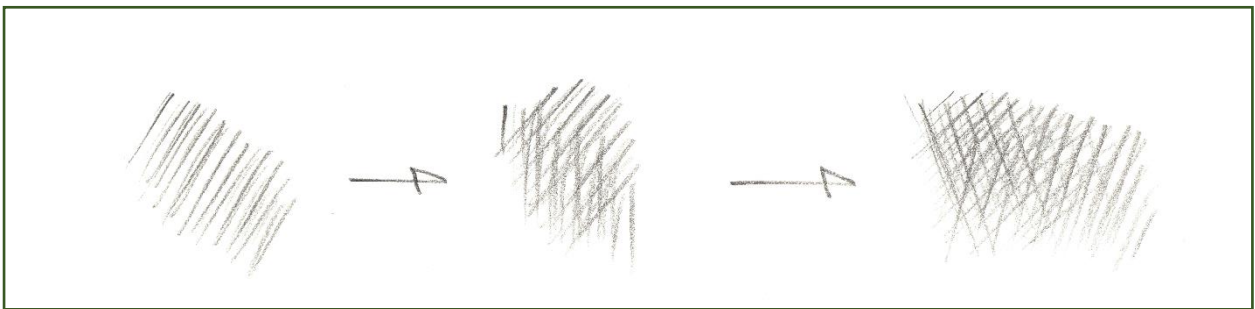
指でこすって描く



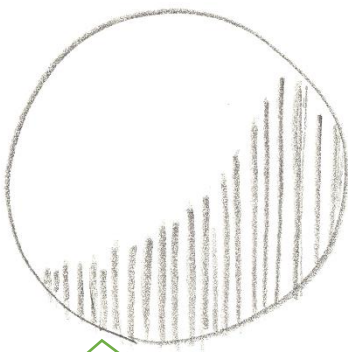
鉛筆で描いた後に消しゴムで描く描く



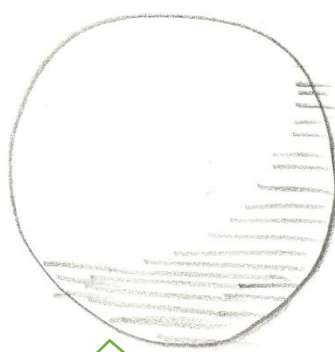
(1) ハッチングのバリエーション



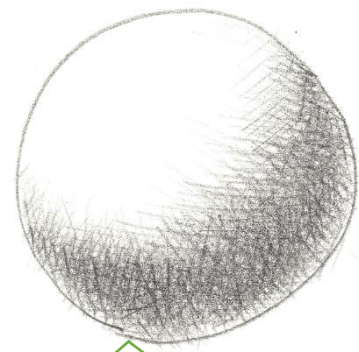
• 上のように線を重ねていくことで表現していきます。



縦線は下絵向かう重力を感じさせます。



横線は広がりを感じさせます。



線を組み合わせていくことで、立体感を表せます。

4、明暗の調子

通常の鉛筆デッサンは、色調を白黒のみで表現するので、グラデーション（変化の幅）をつくる技術は重要になってきます。グラデーションパレット（明暗表）と呼ばれるモノを見てみましょう。

下の図がグラデーションパレットと呼ばれるものです。使用する鉛筆の濃さによって表現できる幅も変わってきます。

- 2B：芯が柔らかく、濃く表現しやすい。



- H：芯が固く、色が乗りにくい。



- いろいろな濃さの鉛筆を使う：濃い部分には、B系を薄い部分にはH系を使うとスムーズ。



☆Practice（練習）

Practice Seat（練習用紙）に練習をしてみましよう。

練習① タッチ

別紙の用紙の枠に考えられるだけのタッチを練習してください。

練習② グラデーションパレットを制作しよう。

用紙の枠に鉛筆の濃さを変えて、4種類。

核を増やしたのもトライしてみよう。

5、形の取り方

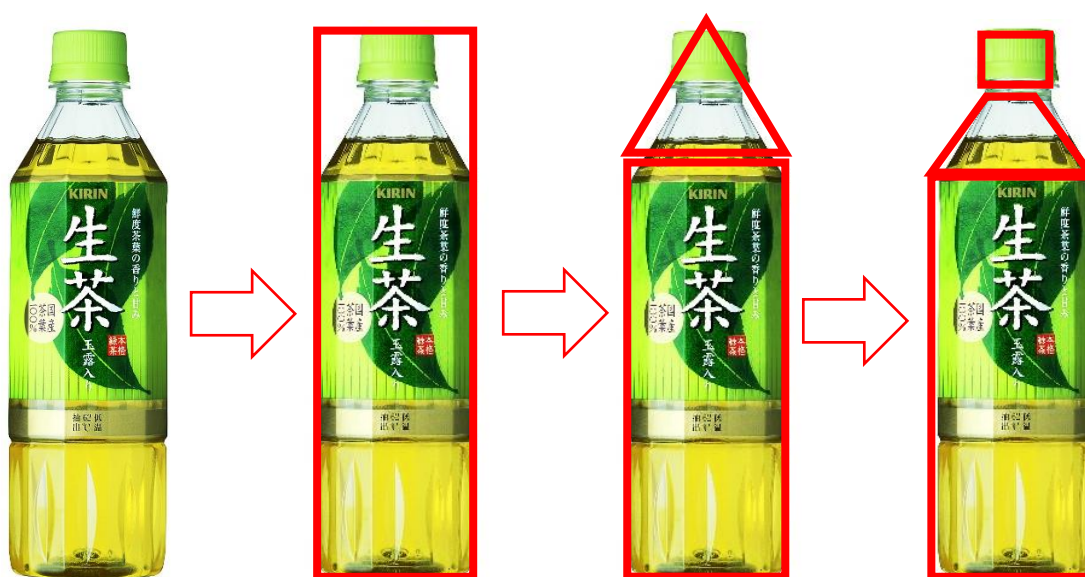
描こうとするものを**基本的な形**に置き換えてみます。

基本的な形とは、“○△□”を言います。

例えば、下の写真。左の写真の手前の木を置き換えると、右のようになります。

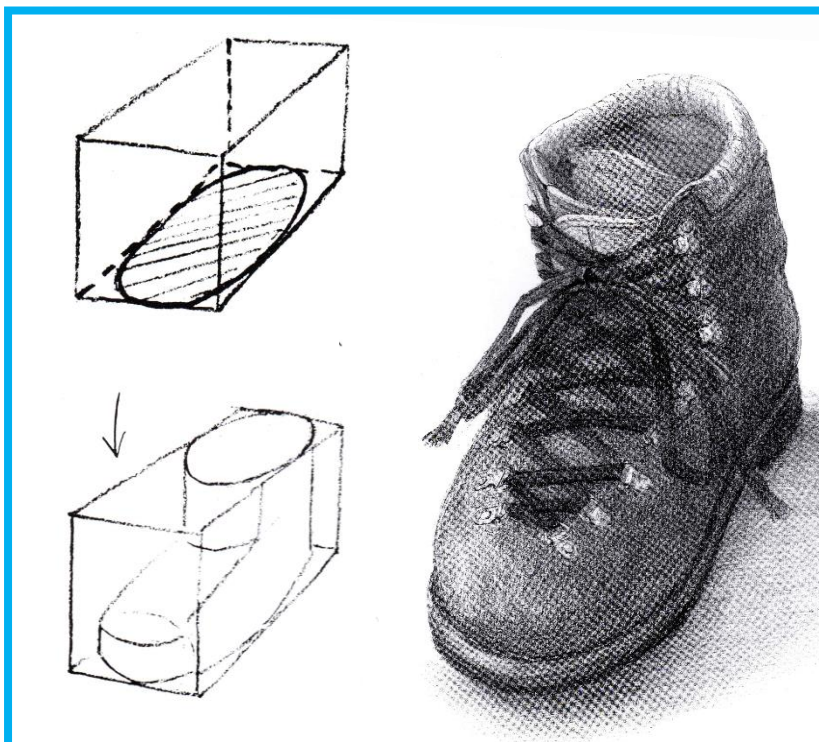
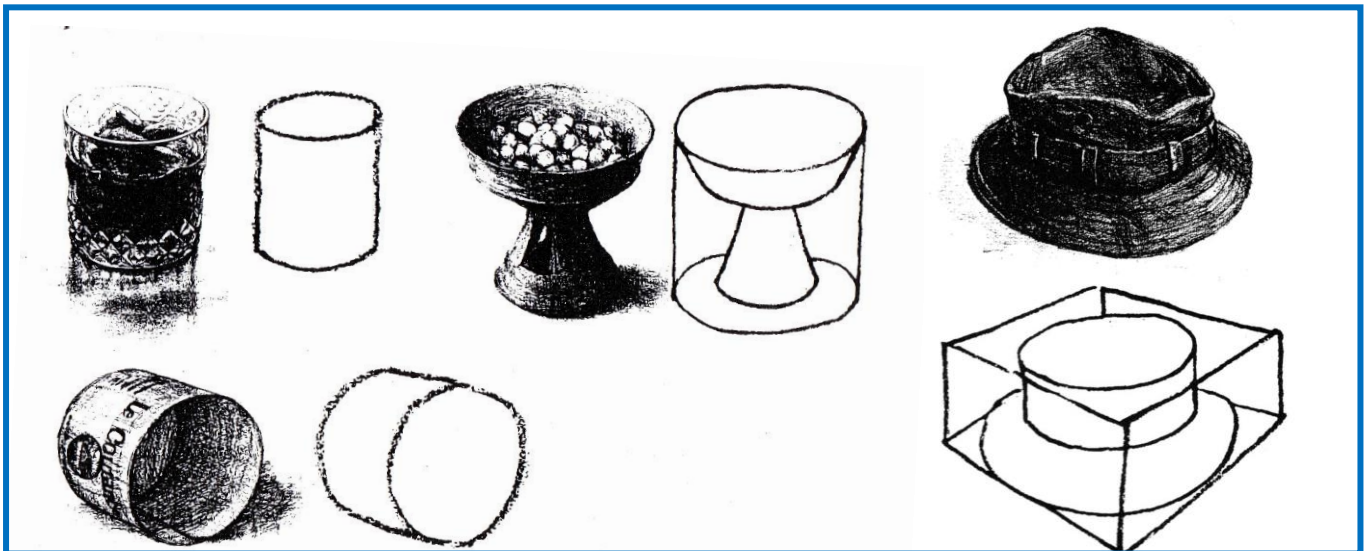
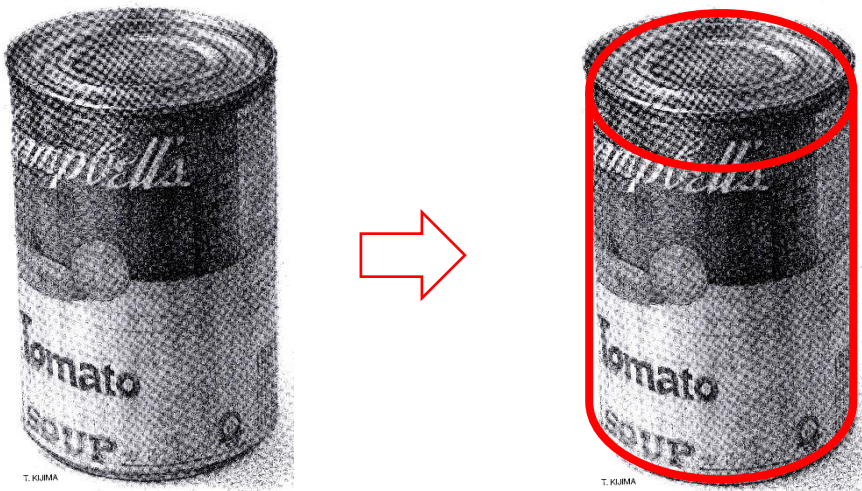


ジュースの缶だと下のようになり、右に行くほど細かく分けています。



図のように、最初は、全体の形を置き換えて、次第に細かくみて、置き換えていきます。そうすることで、複雑な形のものも描きやすくなります。

実際には、物を真横から見ることは少ない（立体として表現しずらくなります）。ですから、ペットボトルや缶は、円柱になります。



複雑な形の靴も全体の形をとり、徐々に細かくしていくことで、描けていきます。

靴の場合では、一番大きな塊である靴の底（底面）を基準に全体の形をとることです。

形をとる順番は、

大きいところから
だんだんと
小さなところへ

です。

☆Practice (練習)

Practice Seat (練習用紙) に練習をしてみましょう。

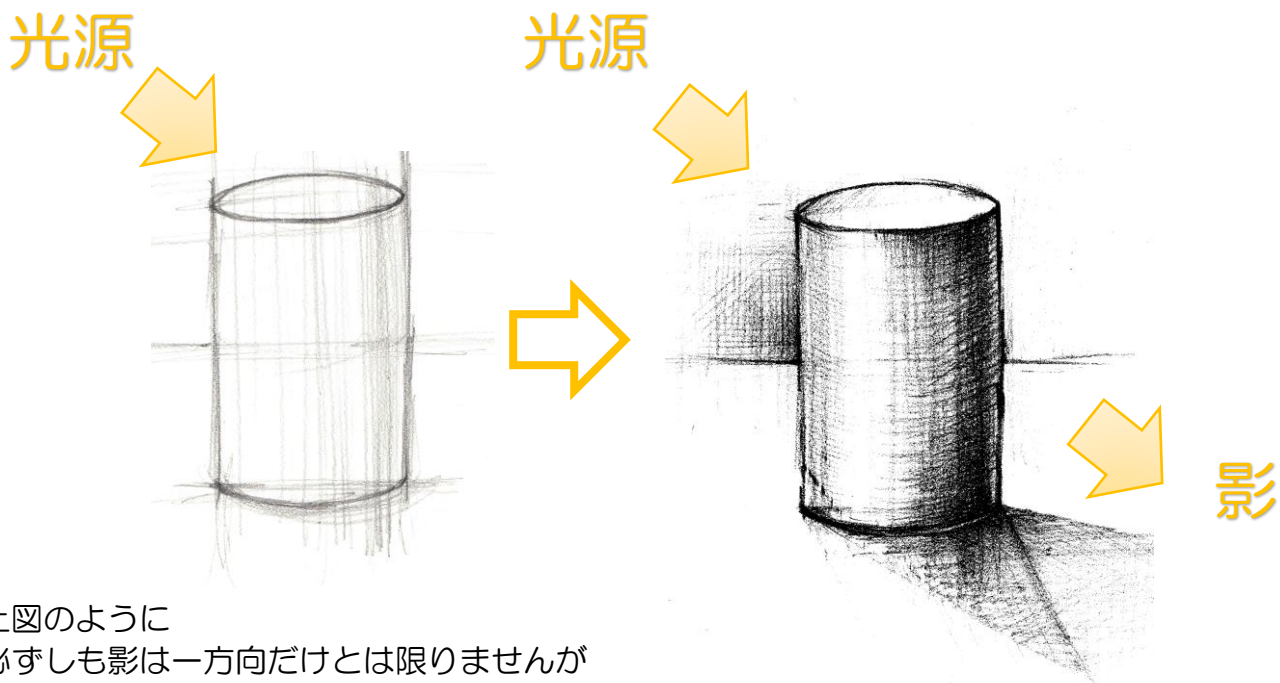
練習

身の回りにあるものを描きましょう。

- 描くにあたっては、**形を正確にとることを意識して**描きましょう。
- 描く対象 (モチーフ) は何でも構いません。
- 陰影 (影) は描かなくてかまいません。

6、立体として表現する

今まで、学んだことを生かして、いよいよ具体的なものを描いていきます。ここで重要なのが、光源の位置です。自然光では、光源は太陽だけ、ひとつということになります。もちろん、反射して跳ね返ってくる光や室内では、照明などがありますが、通常**一番強い光はひとつ**で描く方がよいでしょう。



上図のように必ずしも影は一方向だけとは限りませんが

光源の反対側に強い影ができます。これは、物体もテーブルにつく影も同じです。また、右側のように後も含めたものの周りの空間にも陰影をつけていくとさらにリアルさが増してきます。

これをうまくできると、**立体感や空間**が表現されていきます。

☆デッサンのポイント

ここまでの学習を通して、デッサンのポイントをまとめると、

- ① **形を正確にとる。(描く)**
- ② **明暗 (陰影) をつける。**
- ③ **空間を表現する。**

と、なります。

☆作品を描こう。

- 今までの学習を生かして、課題作品を制作しましょう。
作品は、配付された画用紙に描いてください。

課題①

自分の“手”を描こう。

課題②

自由課題

何を選ぶのかは自由です。

形をしっかりとって、明暗をつけてリアルに描いてください。